2018年9月20日

宮園防災ニュースレター

第１０号
（回覧版）

発行
宮園自治会自主防災会

宮園自治会会長　　高橋　布芳
宮園自主防災会本部長　佐久間英夫

ブロック塀等の安全点検のお願い

１．はじめに

今年６月に発生した大阪北部地震では、ブロック塀や石垣の倒壊により２人が亡くなりました。ブロック塀等は、私たちのプライバシーの確保や防犯、防火などに役立っています。しかし、地震などによって倒壊したときは、通行人がケガをしたり、道路が狭くなって避難や救助が困難になったりする等の障害が生じる可能性があります。このような障害を防止するため、自宅のブロック塀等の点検をお願いします。

２．自己点検のポイント

自己点検するポイントは別紙の「ブロック塀の点検のチェックポイント」をご参照下さい。なお、この点検ポイントに関連して、以下に若干の補足説明をしますので、併せてご検討下さい。但し、下記補足は簡略的なものです。従って、該当した場合即危険ということではありませんし、下記以外でも危険な場合もあります。気になった場合はできるだけ後述の専門家等に相談することをお勧めします。

（１）傾きがないか。または、押すとぐらつきがないか。

大きく傾いているものや押すとぐらつきがある場合は、地盤の状況により地震の揺れなどに耐えられない可能性があります。
また、７年前の東日本大地震によって傾き始めた場合、あるいは傾きが大きくなった場合は、次の大きな地震の際には耐えられないで崩れる可能性があります。

（２）既存の大谷石の上にないか。

宮園では、売り出された当初にあった大谷石の上にブロックなどを積み足している場合があります。この場合、大谷石とその上に載せたブロックとが鉄筋等で繋がっていないため地震に弱く、また、大谷石そのものの経年劣化等によって傾きがでている可能性があります。このような場合も大きな地震の際には耐えられない可能性があります。

（３）既存の塀や擁壁（壁）に積み足していないか。

既存の塀や壁にブロック塀を積み足したときは、地震の揺れなどに抵抗する鉄筋を下の塀と繋げて固定していないことや全体のバランスに欠けるなどの可能性があります。このような場合も地震に弱いと思われます。

（４）基礎が十分か。

ブロック塀や擁壁（土留め）の場合は、土地表面より深く埋め込みの基礎を作ってから設置する必要がありますが、基礎がない場合は地震に耐えられないことがあります。

（５）変色、ひび割れや破損があいか

長い間の太陽光や風雨によるブロック塀の風化や変色が進んでいるときは、塀内部がもろくなっている場合があります。また、表面にひび割れや破損により鉄筋の腐食や塀が沈下している可能性があります。

３．問い合わせ先

（１）別紙のチェックポイント等について分からないことがあれば、下記に相談して安全を確認して下さい。
流山市商工会議所　建設業協同組合事務局　細井氏（０４－７１７８－８６６８）

（２）ブロック塀等の診断をご希望の方は、奥羽建設（有）に連絡して下さい。
同社の大貫社長は「ブロック塀診断士」の資格を持っており、宮園については無料で引受けて頂くことになっております。

４．改修等での注意

ブロック塀等を改築する場合、２０１１年１１月に法律として制定された「宮園地区地区計画」に定められた「かき又はさくの構造の制限」を守る必要があります。また、擁壁（土留め）の基礎については、地区計画と同時に策定した「宮園まちづくりガイド」によるガイドラインがあります。なお、ブロック塀等を改築する場合は、流山市都市計画課へ事前に届け出る必要がありますので、専門家と相談して下さい。

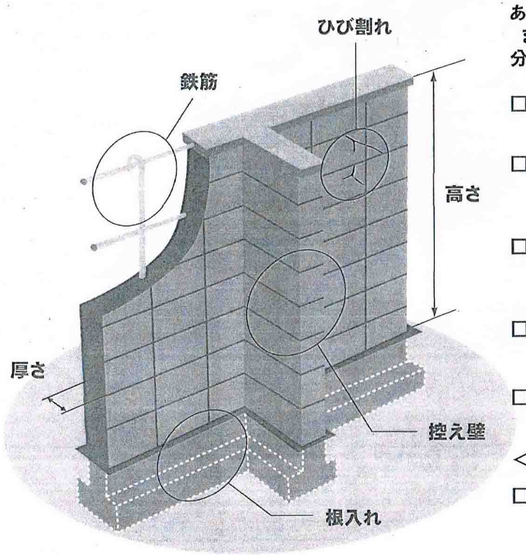
５．いざという時の備え

小さい子供や歩行が困難な方が、地震によるブロック塀の倒壊による事故に遭わないために、「地震発生時には塀から離れること」などを日頃から話し合って下さい。また、実際に高い塀等の傍を通るときなど、大きな地震が起こった時どうすればよいか、実地に教えて下さい。なお、塀から離れるだけでなく交通量の多い道路では、車道にはみ出すことの危険も合わせて適切なご指導を願います。

以上

ブロック塀の点検のチェックポイント

別紙１　国土交通省



出典：
パンフレット「地震からわが家を守ろう」日本建築防災協会　2013．1 より一部改

ブロック塀について、以下の項目を点検し、ひとつでも不適合があれば危険なので改善しましょう。
まず外観で１～5をチェックし、ひとつでも不適合がある場合や分からないことがあれば、専門家に相談しましょう。

□ １．塀は高すぎないか
・塀の高さは地盤から2.2m以下か。

□ ２．塀の厚さは十分か
・塀の厚さは10cm以上か。（塀の高さが2m超2.2m以下の場合は15cm以上）

□ ３．控え壁はあるか。（塀の高さが1.2m超の場合）
・塀の長さ3.4m以下ごとに、塀の高さの1/5以上突出した控え壁があるか。

□ ４．基礎があるか
・コンクリートの基礎があるか。

□ ５．塀は健全か
・塀に傾き、ひび割れはないか。

＜専門家に相談しましょう＞

□ ６．塀に鉄筋は入っているか
・塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも　80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされているか。
・基礎の根入れ深さは30cm以上か。（塀の高さが1.2m超の場合）

組積造（れんが造、石造、鉄筋のないブロック造）の塀の場合
□ １．塀の高さは地盤から1.2m以下か。
□ ２．塀の厚さは十分か。
□ ３．塀の長さ4m以下ごとに、塀の厚さの1.5倍以上突出した控え壁があるか。
□ ４．基礎があるか。
□ ５．塀に傾き、ひび割れはないか。

＜専門家に相談しましょう＞
□ ６．基礎の根入れ深さは20cm以上か。